

(様式3)

自己評価及び外部評価結果

作成日 平成28年8月26日

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	0870700192		
法人名	株式会社 ユニマット リタイアメント・コミュニティ		
事業所名	結城ケアセンターそよ風	ユニット名	ゆり ユニット
所在地	〒307-0001 茨城県結城市結城923-1		
自己評価作成日	平成28年4月2日	評価結果 市町村受理日	平成28年9月7日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報 リンク先URL	http://www.kaigokensaku.jp/08/index.php?action_kouhyou_detail_2013_022_kihon=true&JigyosyoCd=0870700192-00&PrefCd=08&VersionCd=022
-----------------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	社会福祉法人茨城県社会福祉協議会		
所在地	〒310-8586 水戸市千波町1918番地 茨城県総合福祉会館内		
訪問調査日	平成28年5月18日	評価機関 決 済 日	平成28年8月26日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

<p>ご利用者様お一人おひとりのペースと意思を尊重しながら、『じぶんらしさ』を大切に受け止め、ゆったりとした時間の中で寄り添い、安心して生活出来るよう支援に努めています。</p>

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

<p>事業所は近くに小学校もある閉静な住宅地に立地しており、近隣住民と挨拶を交わすなど、日頃から交流がある。</p> <p>同一法人運営の併設する通所介護事業所と同じ食事を提供しており、利用者は一人ひとりに合った役割を担いながら、残存機能を活かすようにしている。</p> <p>地域住民と交流を図るために、自治会主催の夏祭りやさくら祭り、盆踊りなどに積極的に参加している。</p> <p>管理者は職員と面接する機会をつくり、意見や要望を汲みあげて運営に反映しているほか、新人教育にも力を入れており、指導することによって職員自身の再確認にもつながり、利用者支援の向上に結びつくよう取り組んでいる。</p>

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ホーム独自の理念を掲げ、毎朝申し送り時間に理念を唱和することにより、チームの意識を高めている。	地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所独自の理念を事務室や各ユニットに掲示するとともに、管理者と職員は毎朝の申し送り時に唱和して共有している。 管理者は月1回の職員会議時に、理念にそった支援ができているかをその都度確認しながら実践に結び付けている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に加入し、回覧板等から地域情報を収集している。地域イベントへの参加機会を設け、交流を図っている。また、ホーム情報誌を毎月作成し、町内に配信している。	事業所は自治会に加入しており、利用者は職員と一緒に回覧板を回しているほか、事業所が毎月発行する広報誌「そよ風だより」も地域住民に回覧してもらうことで、事業所の実情や認知症の対応などを知らせ、事業所が地域の一員となるよう取り組んでいる。 利用者は職員と一緒に自治会主催の夏祭りや盆踊り、さくら祭りに参加するほか、近隣の保育園児や傾聴ボランティア、踊りのボランティアの来訪があるなど、日常的に地域住民と交流をしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	『認知症サポート相談窓口』を設置し、地域貢献に努めている。また、近隣に認知して頂くため、認知症ケア専門士のステッカーを玄関に貼っている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	出席者より率直な意見・評価・情報を幅広く聴取し、職員に落とし込むことにより、利用者様の生活支援に活かすことが出来ている。自治会役員・家族様代表・市の介護福祉課・民生委員。グループホーム管理者で構成している。	運営推進会議は家族等の代表や市担当者、民生委員、地域住民、管理者、職員で2ヶ月に1回開催している。 会議では利用者の生活の様子や運営状況、外部評価の結果、行事の報告をするとともに、課題などを話し合っ て委員から出た意見や助言をサービスの質の向上に活かしている。 避難訓練時の地域住民の参加がないことを相談すると、委員から「運営推進会議を避難訓練の日に実施してはどうか」との提案があり、検討している。	

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	担当者とは訪問や電話にて相談等を行い、指導・助言を頂く等、連携は図れている。また、運営推進会議を通して状況や取組みを伝えたり、結城市地域密着型サービス事業者連絡会に加盟することにより、他ホームとの協力体制を整えている。	管理者は要介護更新申請などで市窓口を訪問しているほか、運営状況や空き状況を報告したり、結城市地域密着型サービス事業者連絡会に市担当者が出席しているので、そこで情報交換をするなど、日頃から協力関係を築いている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束委員会を設置し、定期的に会議や勉強会を実施することにより全職員で周知徹底している。当ホームには階下に通じる階段ドアには施錠の制限があり、階下へ行きたいと云う個人の意思や『思い』を尊重し、日常的にエレベーターを利用して頂き、共に行動することに努めている。	身体拘束を行わないことを重要事項説明書に明記するとともに、身体拘束委員会を設置して年間研修計画を立て、2ヶ月に1回身体拘束となる具体的な行為やその弊害について内部研修を行っている。 安全確保のため、日中でも2階からの階段入り口やエレベーターは施錠しているが、利用者が外に出たい場合は職員が付き添いながら支援し、管理者と職員は開錠に向けて話し合っている。 施錠に関して全家族等から、書面にて同意を得るまでには至っていない。	利用者の安全確保のため、日中は玄関を施錠している点を家族等にも説明し、書面にて同意を得ることを期待する。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	定期的に会議や勉強会を実施することにより全職員で周知徹底を図り、虐待を未然に防ぐ取組みに努めている。小さいアザや傷などからもその原因等を確認するようにしている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在、成年後見制度をご利用されている入居者様はいるが、スタッフの知識に不十分な面も一部あると考えられる為、今後も権利擁護に関する研修の参加や勉強会を開催し、知識習得に努める。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時・解約時には、契約書・重要事項説明書・個人情報等の書類について細部にわたり説明を行い、理解して頂けるよう努めている。また、法改正時にも同様に、十分な説明を行い同意書を交付し、理解して頂けるよう努めている。	/	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	率直な意見が頂けるよう、ご意見をホーム玄関に設置したり、家族会開催時には無記名のアンケートを実施している。頂いた意見・要望には内容を精査後、迅速に反映させている。		
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の全体会議や部署別会議を実施し、十分に話し合いが出来る機会を設けている。また、会議以外にも、気軽に意見や提案・相談・要望等を聞く時間を設けている。	管理者は月1回の職員会議や年1回の職員面接で、職員の意見や提案を聞く機会を設けているほか、日頃から何でも言える関係づくりに努めている。 職員の意見等を受けて業務の見直しをしたり、物品の購入をするなど、運営に反映している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	定期的な面談により、個々の状況を把握し、意識の確認や個人の抱える課題、他者との関係性等を把握出来るよう努めている。また、この面談の内容を給与面や職場環境改善に反映している。	/	

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内部研修により、個々の知識拡大や技術の向上に繋げることが出来ている。また、外部研修の情報を積極的に提供することにより、資格取得の意欲を高め、個々のスキル向上を促している。新人研修としてトレーナーをつけて1か月・3か月とその課題やスキル向上を図っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	結城市地域密着型サービス連絡協議会を通し、他事業所との情報交換・共有に取り組んでいる。また、同法人のホームとの部署別会議を通して意見交換を実施しており、利用者様の生活に活かしている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前の実調など情報収集に努め、アセスメントを行っている。自宅訪問時には、入居者様が自宅でどのような生活を送ってきたか等も把握に努め、入居後安心した生活が継続出来るよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居相談時、ご家族様の想いを受容的態で理解に努め、ご家族様と共に本人を支える支援を提案させて頂き関係性を深める努力をしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	グループホームで生活を送ることが、ご本人とご家族にとって最善であるかを見極め、ご本人やご家族が望んでいることを確認している。開始時には望む暮らしの把握に努めている。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	暮らしの中の様々な場面、役割の中で（炊事・清掃・料理・洗濯園芸・木工・縫製買い物・その他知識や知恵等）利用者様より教えて頂き、活躍できる場を提供しながら、自然な関係性で暮らしを支えることを実践している。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月各担当者が月間報告書を記載しご家族様に送付し、些細な事でも相談や報告するようにしている。面会頻度の少ないご家族様にも面会のきっかけを作るようにし、共に支え合う意識を高めて頂くよう取り組んでいる。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居前に利用されていた美容・理容店の継続利用したり、知人・友人がいつでも訪れて頂けるよう面会時間を定めず、また、馴染みの商店での買い物・個人の思い出の場所に外出支援等、思いに応えるよう努めている。	職員は利用者との日々の会話や家族等から話を聴き、利用者が築いてきた馴染みの人や場所を把握するよう努めている。 職員は利用者と一緒に馴染みの店での買い物に行っているほか、利用者家族等の協力を得て自宅への外出や外食、馴染みの美容室に行くなど、これまで大切にしてきた人や場所との関係が途切れないように努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様同士の関係性の把握に努め、共に響き合い助け合うことが出来るよう支援している。職員の介入や座席への配慮・個人の希望等にも留意している。また、関係が築けない方が孤独と捉えることが無いよう十分に注意し、職員が寄り添うよう努めている。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	長期入院等で退居された方などには、面会に行ったり、ご家族様に連絡したりご本人の様子等確認できるよう関係を保つようにしている。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	ご本人様の考えや思いを傾聴し把握に努め、可能な限り応じるよう努めている。また、意思を伝える事が困難な方に対し、日々の行動や仕草・表情等を確認しながら支援に取り組んでいる。	管理者や職員は、入居時の聴き取りやアセスメント表から利用者の生活歴を把握しているほか、日々の生活の中で会話や関わりから思いや意向を把握し、ユニット会議や申し送りノートで職員同士周知している。 意思疎通が困難な利用者の場合は、表情や仕草などから判断したり、家族等から情報を得て共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の事前調査により、出来る限りの情報収集に努めている。また、ご本人様に関わりのあるケアマネジャー・医師・訪問看護師等の協力を得て、生活歴や馴染みの暮らし等の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの状態を見極め、その時折々の有する力を活かすことが出来るよう心掛けている。また、日々の様子や変化を見逃さず記録に残すことで情報を共有しホーム全体で把握している。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	カンファレンスにおいて、ご本人様・ご家族様の思いや要望を汲み取り、さらに職員の意見を反映させ介護計画を作成することを心掛けている。	介護計画は利用者や家族等の意見や要望、職員の意見を取り入れて計画作成担当者が作成するとともに、3ヶ月に1回モニタリングを実施して6ヶ月から1年で見直している。 利用者の心身の状態に変化が生じた場合は、その都度現状に即した介護計画に見直し、利用者や家族等の確認を得ている。	

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護計画書に沿った記録を行い、申し送りノート等の内容から新たな視点・発見等もあり、介護計画作成に反映できるようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	併設事業所において、カルチャー教室を開催していることもあり、希望により参加している。また、慰問ボランティアや各種行事に参加し楽しんで頂いている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ご利用者様個々のニーズに応じて、新聞販売店や乳製品販売店を利用する等、地域資源を活用している。また、地域行事やイベントに参加する機会も設けている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人様やご家族様のご希望・ご要望を重視し、かかりつけ医との継続的医療を可能な限り実践している。また、やむを得ず他の医療機関を希望される場合は、情報提供を行い十分納得して頂けるよう努めている。	契約時に利用者や家族等に希望するかかりつけ医への受診が可能ことや協力医療機関の医師をかかりつけ医にできることを説明し、確認を得ている。 月2回協力医療機関の医師による訪問診療を支援するとともに、週1回医療連携体制を取っている訪問看護ステーションの看護師による健康管理を支援している。 受診結果は電話や来訪時に家族等に報告しているほか、「申し送りノート」や「個人記録」に記載して、全職員で共有している。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護事業所と医療連携体制を締結し、看護師の週1回の訪問が行われている。当ホーム職員からの連絡ノートを作成し、相談・報告事項を伝え、それに対してアドバイス等を頂き、その後の支援に反映させている。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>入院した際には定期的に訪問し、状態の確認や退院の見込み等の情報収集に努めている。また、月に1回は医療連携疾患等へホームの情報提供活動を実施し、関係が築けるよう努めている。</p>	/	
33	12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>当ホームにおける『重度化した場合の対応・看取り対応に関する指針の同意』は既に交わしており、チームでターミナルケアを実施している。今後のご家族様の要望を確認しつつ、関係者と共に終末期ケアに向けて連携が図れるように取り組んでいる。</p>	<p>契約時に重度化や終末期に向けた事業所の対応指針を説明し、利用者や家族等の同意を得ている。</p> <p>協力医療機関の看護師と24時間連携体制ができており、看取り介護を行う事業所となっている。</p> <p>職員は看取りに関する外部研修に参加するとともに、重度化や看取りマニュアルをもとに、定期的に内部研修を行っている。</p>	
34		<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>マニュアルの整備や定期的な勉強会を開き、知識や技術の習得に努めている。また、事故事例検討会議等では看護師の指導の下、施設全体で実践に備えている。</p>	/	
35	13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>災害時の緊急電話対応・避難経路・避難場所・消火器の設置場所や使用方法・非常時用備蓄品の管理等、研修を通し職員全員が理解できるように取り組んでいる。また、災害時における地域自治会への緊急要請や近隣住民との協力体制は確立されている。</p>	<p>夜間や地震を想定した避難訓練を年2回実施しているが、地域住民の参加を得るまでには至っていない。</p> <p>訓練の実施記録を作成して訓練後に良かった点や問題点、反省点、今後の課題などを話し合っただけで記録に残している。</p> <p>災害に備えて米や水、食料品、懐中電灯、おむつ類などを備蓄品リストを作成して管理している。</p>	<p>自治会と災害時の協力要請の書類を取り交わしているつながりを活かし、避難訓練時に地域住民の参加が得られるよう働きかけることを期待する。</p>

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個性を尊重し、一人ひとりにあった言葉遣いや表現等に配慮し日々のケアを行っている。	管理者と職員は、利用者の誇りやプライバシーを損ねない言葉かけに配慮するとともに、家族等に説明して書面で同意を得ている。 職員は個人情報に関する内部研修に参加し、利用者一人ひとりの尊厳を大切に考えた支援を理解している。 個人情報に関する書類は、事務室の鍵のかかる書棚に保管し、情報漏洩に留意している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常的な関わりの中で会話や行動から思いが導き出せるよう働きかけている。また、自己表現が出来るような関係性や環境づくりにも努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員側の業務が優先されないよう、1日の時間の流れを考慮し、ご本人様の希望に出来る限り添えるよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご家族様に協力や理解を頂きながら、ご本人の好みの衣料品や化粧品を購入したり。理美容の外出支援を行っている。一人ひとりのこだわりや思考を大切にした支援に取り組んでいる。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食に対し楽しみを持って頂きながら、食材の切り込み・取り分け・配膳・食器の洗浄等、自ら参加して頂きご本人様の持つ力を活かしていく。	同一法人運営の併設する通所介護事業所と同じ献立を管理栄養士が立てて、自家菜園の野菜を取り入れながら調理職員が調理をしている。 利用者は野菜の皮むきやテーブル拭き、盛り付け、食器洗い、食器拭きなど、準備や後片付けをできる範囲で行っている。 正月や雛祭り、誕生会、クリスマスなどの行事には特別食を提供しているほか、利用者の希望を聴きながら外食を取り入れるなど、食事が楽しみなものとなるよう支援をしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や水分量を記録し、健康管理に努めている。病状や体調を考慮し、水分を意図的に進める支援や毎月の体重測定、食事形態・水分の提供方法を工夫したりと個々に合わせた対応を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	朝昼晩の口腔ケアを実施している。ご自身での口腔ケアが困難な方に対しても、介助にて清潔を保てるよう努めている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄チェック表の確認や排泄状況を把握し、声掛けにて可能な限りトイレにて排泄が行えるよう支援している。スタッフは個々に応じてスムーズに排泄が済ませることが出来るようプライバシーに配慮したケアを心がけている。	職員は排泄チェック表や個人記録から利用者一人ひとりの排泄パターンを把握し、タイミングを見計らってトイレ誘導をすることで、トイレで排泄ができるよう支援をしている。 おむつからパッドやリハビリパンツに移行した利用者もおり、家族等から喜ばれている。	

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	細目に水分を摂って頂くなど水分量の管理を徹底したり、日々のレクリエーションなどに運動を取り入れたりと一人ひとりに応じた支援を心掛けている。また、便秘対策としてのセンナ茶や毎日の乳製品を飲用して頂いている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	毎日入浴をして頂ける体制が整っている。気の合う仲間同士の入浴や入浴剤を使用し香りや色を楽しんで頂ける環境を整備している。また、機械浴・半身浴・シャワー浴等を身体状況に応じ提供している。	毎日の入浴を基本とし、利用者の状況や希望にそって入浴日や時間帯を変えたり、シャワー浴や足浴など、個々に応じた対応をしている。 入浴を嫌がる利用者には無理強いせず、職員や時間帯を変えたり、言葉かけに工夫をして入浴ができるよう支援をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個人の生活習慣に合わせて就寝時間を設けている。夜間良眠出来るよう日中の活動量に気を付け、状況に応じて下肢マッサージや足浴等を提供する。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	既往症・現病から必要に応じて薬剤情報を確認するよう努めている。内服薬の増減・新薬の投与における身体の変化や心理に及ぼす影響等、観察を怠らないよう努める。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個人の得意分野を把握し負担にならないよう実施している。また、傾聴ボランティア等を受け入れることで気分転換を図っている。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	個人の希望や必要性に応じて散歩や買い物等の外出をしたりと、季節を楽しむ機会を設けるよう努めている。	年間行事計画を立てて、利用者の思いにそった場所へ、車いすの利用者も一緒に外出をしている。 さくら祭りや夏祭り、盆踊りなどへの外出のほか、家族等の協力を得ながら墓参りなどに出かけている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現金使用を希望される時の買い物の同行や自己管理しているご利用者様へのフォロー等、個々のスタイルに合わせた金銭管理が出来るよう支援している。	/	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望に応じて自由に電話が出来る環境を整えている。また、手紙や年賀状等ご本人様に書いて頂けるよう環境作りに努めている。	/	
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	四季折々の花を活けたり、手作りの作品を飾る。また、音楽を流したりすることで心地よい空間になるよう工夫している。 汚れや匂いにも十分注意し、ご利用者様が快適に過ごせるよう取り組んでいる。	共用空間には生け花を飾ったり、廊下の壁には利用者が制作した季節の作品を飾るなど、季節感を取り入れる工夫をしている。 居間兼食堂にはソファが置いてあるほか、一角に腰が掛けられる高さの畳のスペースがあり、そこでは洗濯物をたたんだり、利用者が気兼ねなく職員に相談事をするなど、それぞれが思い思いに寛げる環境となっている。	

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファや畳コーナー等を設置することにより、好みの場所の選択肢が増えるよう工夫している。	/	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人様の愛用品や自宅で使われていた馴染みのものを取り入れることが居心地が良い空間作りに繋がることを家族様に説明し、ご本人様の思いが詰まった大切な場所になるようご家族様と一緒に空間作りを行っている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	家具・家電の配置を工夫し、危険が無い住環境を提供している。また、ご利用者様が中心になり自室の整理整頓が行えるような声掛けを心掛けている。	/	

V アウトカム項目		
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	1, ほぼ全ての利用者の ○ 2, 利用者の2/3くらいの 3, 利用者の1/3くらいの 4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○ 1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3, たまにある 4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	1, ほぼ全ての利用者が ○ 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：36, 37)	1, ほぼ全ての利用者が ○ 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	1, ほぼ全ての利用者が ○ 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	1, ほぼ全ての利用者が ○ 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)	1, ほぼ全ての家族と ○ 2, 家族の2/3くらいと 3, 家族の1/3くらいと 4, ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	1, ほぼ毎日のように 2, 数日に1回程度ある <input type="radio"/> 3, たまに 4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	1, 大いに増えている 2, 少しずつ増えている 3, あまり増えていない 4, 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	1, ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> 2, 職員の2/3くらいが 3, 職員の1/3くらいが 4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	1, ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	1, ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> 2, 家族等の2/3くらいが 3, 家族等の1/3くらいが 4, ほとんどいない

(様式4)

目 標 達 成 計 画

事業所名 結城ケアセンターそよ風

作成日 平成28年9月3日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	5	利用者の安全確保の為に日中は玄関に施錠している点を家族等に説明し、書面にて同意を得る	ご家族様より安全の為に玄関施錠であることを理解して頂く	玄関の施錠同意に関する同意書の作成 家族会の開催時の議題	3ヵ月
2	13	自治会との災害時の協力要請の書類を取り交わしているが地域住民の参加する避難訓練等が出来ていない	地域の協力を得て防災訓練を実施することが出来る	自治会へのアプローチと協力依頼 運営推進会議メンバーとして地域消防団員参加呼びかけ	6ヵ月
3					
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。